

感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所 3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和5年
9月号



東京都内の感染症流行情報

第34週（8月21日～8月27日）の流行情報

都内の新型コロナウイルス感染症の第34週の定点当たり報告数は14.53人です。

带状疱疹ワクチン接種の一部費用助成が始まります

◆带状疱疹ってどんな病気？

带状疱疹は水ぶくれを伴う発疹（水疱）が皮膚に分布している神経に沿って帯状に出現する疾患です。水疱が見られる2日から3日前よりかゆみや痛みを感じるようになり、1週間程度たつと水疱の多発や発熱、頭痛といった症状がみられることもあります。通常は2週間から4週間程度で皮膚症状がおさまります。

子どもの頃に水痘（みずぼうそう）にかかると、水痘・带状疱疹ウイルスが体の中で長期間潜伏感染し、加齢や疲労によって免疫が低下した際などに「带状疱疹」として発症します。また、皮膚症状が治った後も、長い間痛みが残る带状疱疹後神経痛（PHN）になる可能性があります。原因となる水痘・带状疱疹ウイルスに対しては成人の9割以上が抗体を持っていることからすでにほとんどの人が感染していると考えられ、誰もが带状疱疹を発症するリスクがあります。

◆予防と治療方法

予防としては、できるだけ健康的な生活習慣を保つことが大切です。食事のバランスに気をつけ、適度な運動と十分な睡眠を心がけましょう。

また、治療方法の中心は、ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬です。より早期の投与が効果的と言われていますので、かゆみや痛みのおとに水疱が出現したりしたときは、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。

◆人に感染させることはありますか。

带状疱疹としてはうつりませんが、水痘（みずぼうそう）としてうつる可能性はあります。带状疱疹は、元々体内にあったウイルスが再活性化することで発症します。このことから、「带状疱疹の発症」自体は人から感染するものではありませんが、水痘（みずぼうそう）を発症する可能性はあります。

水ぶくれが乾燥してかさぶたになるまでは、水ぶくれにウイルスが含まれているため、水痘の罹患経験がない方にうつると、水痘を発症する可能性があります。

特に新生児や、水痘（みずぼうそう）にかかったことのない妊婦さんなどは、感染すると重症化する場合がありますので、水ぶくれが乾燥してかさぶたになるまでは、このような方々との接触をなるべく避けるようにしましょう。

带状疱疹ワクチン接種の一部費用助成には事前の申請が必要です

対象者

- ・接種日時時点で、墨田区に住民登録がある、50歳以上の方
- ・事前申請が助成要件となるため、助成制度の開始以前に接種をされた場合は、全額自己負担となり、接種後に費用を請求できる償還払いの制度はございませんのでご注意ください。

接種を希望するワクチン（2種類から1つ：助成額が異なります）を事前に選択のうえ、申請をお願いします。

(1) 電子申請 <https://logoform.jp/form/DnDq/304243>

右のQRコードからアクセスし、入力フォームに必要事項を入力のうえ、申請してください。電子申請受付フォーム（外部サイト）

(2) 電話での申請 保健予防課（03-5608-6191）まで連絡ください。

(3) 窓口での申請

墨田区保健所 保健予防課 感染症係（墨田区役所3階）で受付いたします。



9月24日～9月30日は結核予防週間です

いまも1日28人が結核と診断されています

◆結核とは

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つです。

結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、たん、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いですが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

◆結核の発生状況

結核は、今でも全国で年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,600人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。

2022年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,235人で、前年より1,284人（11.1%）減少しています。

結核り患率（新登録結核患者数を人口10万対率で表したもの）は前年より1.0ポイント減少して8.2となり、前年に引き続き、り患率10.0未満とする結核低まん延国の水準を達成していますが、新登録患者数及び、り患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられ、今後の動向を注視していく必要があります。

新規結核患者は、**高齢者に多く**、およそ4分の3が**60歳以上**となっています。

2022年の新登録結核患者数は、0～9歳を除く各年齢階級で減少していますが、各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が全体の30.9%を占めて最も多くなっています。

また、特に若年の外国生まれのり患者の割合が増加しており、20-29歳の新規患者のおよそ4分の3を占めています。

◆症状について

結核の症状（長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど）には特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者では気づかぬうちに進行してしまふことがあります。

結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。

咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を**受診**しましょう。

◆結核にかかった場合

結核を発症した場合、治療をせずに放置をしていると50%程度の方が亡くなってしまうといわれています。

現在は、医療の進歩もあり、決められたお薬をきちんと飲み切って治療をすれば、**高い割合で治療ができます。**

◆BCGワクチン接種をしましょう

1歳未満のお子さんは、定期的な予防接種を対象年齢になったら接種しましょう。



新型コロナウイルス感染症について ～感染を広げないための対策をしましょう～

ご家族や同居されている方が新型コロナウイルス感染症にかかった場合は、可能であれば部屋を分ける等の対策をしてください。

外出する際は、新型コロナにかかった方の発症日を0日として、特に5日間は体調に気をつけましょう。7日目までは発症する可能性があります。こうした間は手洗い等の手指衛生や、不織布マスクの着用、高齢者等のハイリスク者と接触を控える等の配慮をしてください。

発熱等、症状が出たときの対応や療養期間、ワクチン接種等に関する情報は墨田区ホームページをご確認ください。

墨田区ホームページ→

